現在、断層映像研究会のプログラムを作成中ですが、各講演セッションの共通コンセプトを

「Case based learning」として、症例ベースでの講演を考えています。

演者の方には、実臨床で活躍されている方や、フィルムリーディングで好成績を収められた読影のエキスパートの先生にお願いしたいと考えています。

構成としては、各領域（全身、胸部など）80分のセッションで、座長2名、演者2名（１人の座長が１人の演者を担当）。

１人40分で、講演 25分 + 症例読影 15分（講演テーマに関連した症例）

この症例読影というのは、座長の先生から事前に講演テーマ（腫瘍/腫瘤性病変など）に関連した症例を準備していただき、症例ベースの講演後の15分で、演者の先生に読影の神髄を見せていただくようなイメージです。

先生には「全身性疾患」のご講演をお願いできればと考えています（テーマにつきましては座長を担当される先生と相談）。ご講演内容としては、ほとんど臨床で遭遇しないような希少疾患よりも、実臨床で教訓となるような症例、たとえば非典型的所見を呈するcommon diseaseとか、腫瘍に見える炎症など（それでも正診に至るような糸口がある）について、症例ベースでお話を進めていただければと思います。

座長の先生からの提示症例につきましては、必要があれば、座長と事前に症例についてのすり合わせもありかと考えていますので、そのあたりは柔軟に準備・進行していただければと思います。

テーブル

AI 生成コンテンツは誤りを含む可能性があります。